

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 埼玉医科  
理事長 丸木 清

埼玉医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	55人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照 (様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照 (様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業員の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	357人	115人	372.5人	看護業務補助	112人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	18人	6人	18.9人	理学療法士	21人	臨床検査 衛生検査 その他	臨床検査技師 78人
薬剤師	68人	0人	68.0人	作業療法士	9人		衛生検査技師 0人
保健師	26人	0人	26.0人	視能訓練士	6人		その他 1人
助産師	23人	0人	23.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	708人	19人	722.7人	臨床工学技士	24人	医療社会事業従事者	10人
准看護師	59人	8人	64.3人	栄養士	53人	その他の技術員	26人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	3人	事務職員	104人
管理栄養士	16人	0人	16.0人	診療放射線技師	56人	その他の職員	84人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
 9 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	1,015.8人	5.2人	1,021.0人
1日当たり平均外来患者数	1,784.5人	61.2人	1,845.7人
1日当たり平均調剤数	外来 2,292 剤 入院 956 剤	合計 3,248 剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

- 10 専任の医療に係る安全管理を行う者及び、専任の院内感染対策を行う者の配置  
 11 医療に係る安全管理を行う部門の設置  
 12 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保  
 13 医療に係る安全管理のための指針の整備  
 14 医療に係る安全管理のための委員会の開催  
 15 医療に係る安全管理のための職員研修の実施  
 16 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策  
 → 別紙参照（様式第13-2）

## 高度の医療の提供の実績

## 1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・無	0人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	0人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・無	0人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	0人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	0人
・人工中耳	有・無	0人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・無	1人
・性腺機能不全の早期診断法	有・無	0人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・無	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	0人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	0人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・無	0人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・無	0人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・無	0人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・無	0人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	0人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	0人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
 2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。  
 3 先進医療で上の表に掲げられているものは、今年度の事業に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・成長障害のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・生体部分肺移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。  
3 先進医療で上の表に掲げられているものは、今年度の事業に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・カフェイン併用化学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・ <sup>31</sup> P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。  
3 先進医療で上の表に掲げられているものは、今年度の事業に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・腓腫瘍に対する腹腔鏡補助下腓切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
 2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。  
 3 先進医療で上の表に掲げられているものは、今年度の事業に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するレーザーによる経皮的椎間板減圧術（CT透視下法）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・活性化血小板の検出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・末梢血幹細胞（CD34陽性細胞に限る。）による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・副甲状腺内活性型ビタミンD（アナログ）直接注入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
 2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。  
 3 先進医療で上の表に掲げられているものは、今年度の事業に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・自己腫瘍（組織）を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	0人
・自己腫瘍（組織）及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	0人

高度先進医療の種類（歯科）	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・無	0人
・顎顔面補綴	有・無	0人
・顎関節症の補綴学的治療	有・無	0人
・歯周組織再生誘導法	有・無	0人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・無	0人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	0人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・無	0人
・レーザー応用による齲蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・無	0人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・無	0人
・顎関節症脱臼内視鏡下手術	有・無	0人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 高度先進医療で上の表に揚げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。  
3 先進医療で上の表に掲げられているものは、今年度の事業に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮線筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術（PPH）	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・強度変調放射線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 高度先進医療で上の表に揚げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。  
3 先進医療で上の表に掲げられているものは、今年度の事業に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・超音波骨折治療法	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・眼底三次元画像解析	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・非生体ドナーから採取された同種骨・靱帯組織の凍結保存	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
 2 高度先進医療で上の表に挙げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。  
 3 先進医療で上の表に掲げられているものは、今年度の事業に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	77人	・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	47人
・多発性硬化症	154人	・ウェゲナー肉芽腫症	9人
・重症筋無力症	209人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	37人
・全身性エリテマトーデス	1,950人	・多系統萎縮症	6人
・スモン	0人	・表皮水疱症 (接合部型及び栄養障害型)	0人
・再生不良性貧血	91人	・膿疱性乾癬	10人
・サルコイドーシス	244人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・筋萎縮性側索硬化症	32人	・原発性胆汁性肝硬変	645人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	567人	・重症急性膵炎	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	190人	・特発性大腿骨頭壊死症	10人
・結節性動脈周囲炎	17人	・混合性結合組織病	254人
・潰瘍性大腸炎	438人	・原発性免疫不全症候群	6人
・大動脈炎症候群	69人	・特発性間質性肺炎	9人
・ピュルガー病	9人	・網膜色素変性症	80人
・天疱瘡	8人	・プリオン病	5人
・脊髄小脳変性症	80人	・原発性肺高血圧症	14人
・クローン病	50人	・神経線維腫症	150人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	10人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・悪性関節リウマチ	59人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・パーキンソン病関連疾患	1,217人	・特発性慢性肺血栓塞栓症 (肺高血圧型)	94人
・アミロイドーシス	36人	・ライゾーーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	4人
・後縦靭帯骨化症	42人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・ハンチントン病	1人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する 部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と 開催した症例検討会の開催頻度	大学全体として年間6回（2ヶ月に1回） 各科毎として週1回程度（年間約50回）		
剖 検 の 状 況	剖検症例数	82 例	剖 検 率      10.3 %

## 1 研究費補助等の実績

No. 1

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助又は委託元
非ホジキンリンパ腫における新規予後因子nm23を用いた層別化治療方法の確立	新津 望	血液内科	千円 1,000	補 文部科学省 科学研究費 委
糖尿病における血管合併症の発症予防と進展制御に関する研究	片山 茂裕	内分泌内科・糖尿病内科	千円 800	補 文部科学省 科学研究費 委
時計遺伝子(BMAL1, CLOCK)のPPARのプロモーター	井上 郁夫	内分泌内科・糖尿病内科	千円 1,000	補 文部科学省 科学研究費 委
アディポネクチン受容体を介したアディポネクチンシグナルの解明	犬飼 浩一	内分泌内科・糖尿病内科	千円 1,200	補 文部科学省 科学研究費 委
特定疾患患者の生活の質(Quality of life, QOL)の向上に関する研究	小森 哲夫	神経内科・脳卒中内科	千円 800	補 厚生労働省 科学研究費 委
樹状細胞を用いた悪性高熱症の新規診断法の開発	菊地 博達	麻酔科	千円 2,000	補 文部科学省 科学研究費 委
中枢神経系疼痛制御機構と理想的な麻酔法、疼痛管理法の探求	正木 英二	麻酔科	千円 1,700	補 文部科学省 科学研究費 委
画像統計解析による超早期アルツハイマー型認知症の診断法の確立	松田 博史	放射線核医学	千円 1,700	補 文部科学省 科学研究費 委
アミロイドーシスの画期的診断・治療法に関する研究	松田 博史	放射線核医学	千円 1,100	補 厚生労働省 科学研究費 委
ARVD/C(不整脈源性右室心筋症)の病態と治療に関する研究	木村 文子	放射線医学	千円 800	補 国立循環器病 センター 委
生体内分解性胆道ステントによる良性胆管狭窄に対する新しい治療法の開発	鳥井 孝宏	消化器・一般外科	千円 2,100	補 文部科学省 科学研究費 委

計 11

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

No. 2

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助又は委託元
生体適合性ポリマーを伴った骨髄細胞移植による人工胆管の炸裂	宮澤光男	消化器・一般外科	千円 700	補 文部科学省 科学研究費 委
胃癌・大腸癌の腸管免疫に関与する細胞性免疫担当細胞の病態と機能	村上三郎	消化器・一般外科	千円 800	補 文部科学省 科学研究費 委
高次脳機能を温存する転移性脳腫瘍の治療法確立に関する研究	西川亮	脳神経外科	千円 700	補 厚生労働省 科学研究費 委
希少がん（悪性脳腫瘍）の個別適正化治療のためのTRI (Translational Research Informatics) システムの構築	西川亮	脳神経外科	千円 2,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
希少悪性腫瘍に対する標準的治療の確立のための他施設共同研究	西川亮	脳神経外科	千円 800	補 厚生労働省 科学研究費 委
悪性脳腫瘍の標準的治療法の確立に関する研究	西川亮	脳神経外科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
良好な視機能温存を目標とした眼部悪性腫瘍の新しい集学的治療法の開発	柳澤隆昭	脳神経外科	千円 11,532	補 厚生労働省 科学研究費 委
上衣腫におけるDNAチップを用いた網羅的遺伝子解析	安達淳一	脳神経外科	千円 1,400	補 文部科学省 科学研究費 委
頭蓋内胚細胞腫瘍の新規腫瘍マーカーの検索と発生機序・治療感受性に関する解析	松谷雅生	脳神経外科	千円 900	補 文部科学省 科学研究費 委
筋ジストロフィー治療のエビデンス構築に関する臨床研究	許俊鋭	心臓血管外科	千円 850	補 厚生労働省 科学研究費 委
胎仔小腸分離細胞の再構築過程における腸管壁内神経細胞遊走のメカニズム	米川浩伸	小児外科	千円 500	補 文部科学省 科学研究費 委

計 11

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

No. 3

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助又は委託元
良食味の低グルテリン米新品種の実用性評価と生産・流通の確立	菅野義彦	腎臓内科	千円 1,000	補 農林水産省 委
新生児重症心疾患に対する予後向上のためのリアルタイム心エコー動画像による遠隔診断と新生児心疾患救急診療システム確立に関する臨床研究	小林俊樹	小児 心臓科	千円 1,500	補 厚生労働省 科学研究費 委
先天性高乳酸血症の診断と病因解明に関する研究	大竹明	小児科	千円 700	補 文部科学省 科学研究費 委
自己免疫疾患に関する調査研究	三村俊英	リウマチ 膠原病科	千円 1,300	補 厚生労働省 科学研究費 委
関節リウマチにおける炎症と動脈硬化	浅沼ゆう	リウマチ 膠原病科	千円 1,000	補 文部科学省 科学研究費 委
碎骨細胞を制御する免疫グロブリン様受容体リガンドの同定とその機能解明	佐藤浩二郎	リウマチ 膠原病科	千円 1,600	補 文部科学省 科学研究費 委
コンディショナルノックアウトマウスを用いたTAK1による骨代謝制御機構の解析	佐藤浩二郎	リウマチ 膠原病科	千円 2,752	補 文部科学省 科学研究費 委
高齢者呼吸器疾患の発症・制御に関する遺伝子・蛋白系の解明と治療応用	萩原弘一	呼吸器 内科	千円 7,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド治療法並びにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究	金澤 實	呼吸器 内科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
成人喘息の寛解を目指した治療薬の減量・中止に関する研究	永田 真	呼吸器 内科	千円 1,500	補 厚生労働省 科学研究費 委
ガイドライン普及のための対策とそれに伴うQOLの向上に関する研究	永田 真	呼吸器 内科	千円 800	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 11

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

No. 4

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助又は委託元
冠動脈不安定粥腫の同定とその効率破綻予防・治療法の開発に関する他施設共同研究	小宮山 伸之	呼吸器内科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
がん生存のQOL向上に有効的な医療資源の構築研究	小林 国彦	呼吸器内科	千円 1,200	補 厚生労働省 科学研究費 委
EGFRの変異型細胞、野生型細胞の混合肺癌に対する治療法の細胞生物学的検討	長井 良昭	呼吸器内科	千円 2,000	補 文部科学省 科学研究費 委
ホモ接合指紋法によるCOPD感受性遺伝子の検索	萩原 弘一	呼吸器内科	千円 10,400	補 文部科学省 科学研究費 委
ゲノム・プロテオーム解析による新規肺癌関連因子の同定と癌病態機構の解明	小山 信之	呼吸器内科	千円 600	補 文部科学省 科学研究費 委
成人気管支喘息患者の重症度等に応じた健康管理支援、保健指導の実践及び評価方法に関する調査研究	永田 真	呼吸器内科	千円 800	補 環境再生保全 機構 委
生殖補助医療の安全管理及び心理的支援を含む総合的運用システムに関する研究	石原 理	産婦人科	千円 1,200	補 厚生労働省 科学研究費 委
臨床研究の実施・成果の高品質化に必要なデータマネジメント教育プログラムの開発及び普及	藤原 恵一	産婦人科	千円 1,800	補 厚生労働省 科学研究費 委
医薬品の使用成績に基づく有効性、安全性の評価方法に関する研究	藤原 恵一	産婦人科	千円 250	補 厚生労働省 科学研究費 委
妊娠子宮脱落膜NK T細胞が認識する糖・リン脂質抗原の同定	鈴木 元晴	産婦人科	千円 1,900	補 文部科学省 科学研究費 委
生殖腺・配偶子保存を中心とした悪性腫瘍患者の妊孕性温存	石原 理	産婦人科	千円 1,500	補 国立成育医療 センター研究所 委

計 11

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



## 1 研究費補助等の実績

No. 5

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助又は委託元
がん患者のQOLの向上をめざした形成外科的治療法の開発	中塚 貴志	形成外科 ・ 美容外科	千円 3,000	補 厚生労働省 科学研究費委 委
開心術後の心臓リハビリテーションが細胞性免疫機構に及ぼす効果に関する研究	牧田 茂	リハビリ テーション科	千円 800	補 文部科学省 科学研究費 委
脳血管障害患者におけるインスリン抗体性の発現機序に関する検討	間嶋 満	リハビリ テーション科	千円 1,300	補 文部科学省 科学研究費 委
NO及びNO関連物質を応用したヒト骨髄細胞の効果的増殖・骨誘導技術開発	古敷谷 昇	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍科	千円 1,500	補 文部科学省 科学研究費 委
神経皮膚症候群に関する研究	土田 哲也	皮膚科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
医薬品の使用成績に基づく有効性、安全性の評価方法に関する研究	佐伯 俊昭	乳腺腫瘍科	千円 250	補 厚生労働省 科学研究費 委
ホルモン補充療法が乳がんの診断に及ぼす影響とその対策に関する研究	佐伯 俊昭	乳腺腫瘍科	千円 10,882	補 厚生労働省 科学研究費 委
効率的かつ効果的ながん専門医の育成方法に関する研究	佐伯 俊昭	乳腺腫瘍科	千円 600	補 厚生労働省 科学研究費 委
乳癌患者におけるCEF-MS209療法の有効性と遺伝子発現解析	佐伯 俊昭	乳腺腫瘍科	千円 2,000	補 文部科学省 科学研究費 委
がんの腹膜播種に対する標準的治療法の確立に関する研究	佐々木 康綱	臨床腫瘍科	千円 1,500	補 厚生労働省 科学研究費 委
抗悪性腫瘍薬を最適化するための臨床薬理学的研究	佐々木 康綱	臨床腫瘍科	千円 1,200	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 11

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

No. 6

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助又は委託元
臨床研究の実施・成果の高品質化に必要なデータマネジメント教育プログラムの開発及び普及	佐々木 康 綱	臨床腫瘍科	千円 800	①補 厚生労働省 科学研究費 委
効果的かつ効率的ながん専門医の育成方法に関する研究	佐々木 康 綱	臨床腫瘍科	千円 600	①補 厚生労働省 科学研究費 委
末梢血中リンパ球を用いた抗癌剤の治療効果予測システムの開発	市 川 度	臨床腫瘍科	千円 2,200	①補 文部科学省 科学研究費 委
骨・軟骨系におけるNO合成酵素とサーカディアンリズム関連遺伝子の作用解明	安 部 貴 大	歯科・ 口腔外科	千円 900	①補 文部科学省 科学研究費 委
自律神経制御の観点に立った骨リモデリングにおける生物時計の関わり解明	佐 藤 毅	歯科・ 口腔外科	千円 1,700	①補 文部科学省 科学研究費 委
膵管上皮病変の病理学的再検討：特にPanINとIPMNについて	清 水 道 生	病理学	千円 1,100	①補 文部科学省 科学研究費 委
脂肪性腫瘍の発生機構に関する分子遺伝学的解析とその病理診断学的応用	廣 瀬 隆 則	病理学	千円 1,700	①補 厚生労働省 科学研究費 委

計 7

合計 62

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Leukemia 21;678-686, 2007	Improvement of criteria for refractory cytopenia with multilineage dysplasia according to the WHO classification based on prognostic significance of morphological features in patients with refractory anemia according to the FAB classification.	松田 晃	血液内科
Cancer Science 98;109-112, 2007	Phase II study of the irinotecan (CPT-11), mitoxantrone and dexamethasone regimen in elderly patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma.	新津 望	血液内科
Laboratory Hematology 12;71-74, 2006	Serum levels of Th1/Th2 cytokines, angiogenic growth factors, and other prognostic factors in young adult patients with hemophagocytic syndrome.	吉田 勝彦	血液内科
内科学 II 1966-1972, 2006	白血球系疾患	別所 正美	血液内科
Int J Hematol 84;432-437, 2006	Human herpesvirus 6 meningoencephalitis in allogeneic hematopoietic stem cell transplant recipients.	川井 信孝	血液内科
Leuk Res 30;1105-1112, 2006	Expression of the myeloperoxidase gene in AC133 positive leukemia cells relates to the prognosis of acute myeloid leukemia.	陣内 逸郎	血液内科
Int J Hematol 85;132-139, 2007	Imatinib provides durable molecular and cytogenetic responses in a practical setting for both newly diagnosed and previously treated chronic myelogenous leukemia: a study in nagasaki prefecture, Japan.	陣内 逸郎	血液内科
Hematol Oncol 24;220-226, 2006	Multicenter phase II study of CycloBEAP regimen for elderly patients with poor-prognosis aggressive lymphoma.	新津 望	血液内科
Leuk Lymphoma 47;1908-1914, 2006	Multicentre phase II study of the baseline BEACOPP regimen for patients with advanced-stage Hodgkin's lymphoma.	新津 望	血液内科
Cancer Sci 97;933-937, 2006	Phase II study of the CPT-11, mitoxantrone and dexamethasone regimen in combination with rituximab in elderly patients with relapsed diffuse large B-cell lymphoma.	新津 望	血液内科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Leuk Res 31;1199-1205, 2006	Prognostic impact of chromosomal alteration of 3q27 on nodal B-cell lymphoma: Correlation with histology, immunophenotype, karyotype, and clinical outcome in 329 consecutive patients.	新津 望	血液内科
埼玉医科大学雑誌 33;73-76, 2006	悪性リンパ腫における新規予後因子nm23の発現動態の検討	新津 望	血液内科
Leuk Res 31;103-104, 2007	Differences in epidemiology of MDS between Western and Eastern countries: Ethnic differences or environmental influence?	松田 晃	血液内科
Eur J Haematol 78;213-219, 2007	Severe hemorrhagic complications during remission induction therapy for acute promyelocytic leukemia: incidence, risk factors, and influence on outcome.	矢ヶ崎 史治	血液内科
Leuk Lymphoma 247;2062-2069, 2006	Treatment of acute myeloid leukemia patients aged more than 75 years: results of the E-AML-01 trial of the Japanese Elderly Leukemia and Lymphoma Study Group (JELLSG).	矢ヶ崎 史治	血液内科
Eur J Clin Pharmacol 62;765-772, 2006	Case-control study on the association of upper gastrointestinal bleeding and nonsteroidal anti-inflammatory drugs in Japan.	太田 慎一	消化器内科・ 肝臓内科
Dig Dis Sci 51;1525-1531, 2006	Clinical response is associated with elevated plasma interleukin-1 receptor antagonist during selective granulocyte and monocyte apheresis in patients with ulcerative colitis.	太田 慎一	消化器内科・ 肝臓内科
Intervirolgy 50;181-189, 2007	Full-length sequences of two hepatitis E virus isolates representing an Eastern China-indigenous subgroup of genotype 4.	持田 智	消化器内科・ 肝臓内科
プラクティス 23;321-325, 2006	2型糖尿病患者におけるヒトインスリン混合製剤から二相性インスリンアナログ製剤ノボラピッド30ミックスへの切り替えの有用性	栗原 進	内分泌内科・ 糖尿病内科
Metabolism 55;935-939, 2006	Acarbose improves fibrinolytic activity in patients with impaired glucose tolerance.	井上 郁夫	内分泌内科・ 糖尿病内科
J Clin Endocrinol Metab 91;3138-3143, 2006	Evidence for the role of small ubiquitin-like modifier 4 as a general autoimmunity locus in the Japanese population.	栗田 卓也	内分泌内科・ 糖尿病内科

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Med Genet A 140;586-593, 2006	Systemic search for single nucleotide polymorphisms in a lymphoid tyrosine phosphatase gene (PTPN22): Association between a promoter polymorphism and type1 diabetes in asian population.	栗田 卓也	内分泌内科・ 糖尿病内科
J Clin Endocrinol Metab 91;1087-1092, 2006	The Association of CTLA4 Polymorphism with Type 1 Diabetes Is Concentrated in Patients Complicated with Autoimmune Thyroid Disease:A Multicenter Collaborative Study in Japan.	栗田 卓也	内分泌内科・ 糖尿病内科
Q&Aでわかる肥満と 糖尿病 6;180-181, 2006	糖尿病網膜症の体質とは?	栗田 卓也	内分泌内科・ 糖尿病内科
Metabolism 55;946-952, 2007	Acarbose ameliorates atherogenicity of low-density lipoprotein in patients with impaired glucose tolerance.	井上 郁夫	内分泌内科・ 糖尿病内科
Biochem Biophys Res Commun 351;595-601, 2006	LKB1, an upstream AMPK kinase, regulates glucose and lipid metabolism in cultured liver and muscle cells.	犬飼 浩一	内分泌内科・ 糖尿病内科
Hypertens 24;403-408, 2006	Preventing microalbuminuria in patients with diabetes: rationale and design of the Randomised Olesartan and Diabetes Microalbuminuria Prevention (ROADMAP) study.	片山 茂裕	内分泌内科・ 糖尿病内科
Hypertens Res 29;523-532, 2006	Treatment with Hypotensive Agents Affects the Impaired Relaxation of the Penile Corpus Cavernosum in Hypertensive Rats.	牛山 正行	内分泌内科・ 糖尿病内科
Int Immunol 18;1473-1485, 2006	A BAFF antagonist suppresses experimental autoimmune encephalomyelitis by targeting cell-mediated and humoral immune responses.	富岳 亮	神経内科・ 脳卒中内科
発汗学 14;26-28, 2007	Complex regional pain syndrome I における精神性発汗、軸索反射性発汗の検討	中里 良彦	神経内科・ 脳卒中内科
Cephalalgia 26;752-753, 2006	Daily morning hemifacial spasm in a patient with cluster headache.	中里 良彦	神経内科・ 脳卒中内科
Neurosci Lett 402;142-144, 2006	Effect of L-DOPA on nitric oxide production in striatum of freely mobile mice.	糸川 かおり	神経内科・ 脳卒中内科

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neurosci Lett 403;63-67, 2006	Enhanced neurogenesis in the ischemic striatum following EGF-induced expansion of transit-amplifying cells in the subventricular zone.	二宮 充喜子	神経内科・ 脳卒中内科
臨床神経学 46;550-554, 2006	Reversible posterior leukoencephalopathy syndromeを呈した橋本脳症の1例	加藤 裕司	神経内科・ 脳卒中内科
J Neurosci 26;6627-6636, 2006	Subventricular zone-derived neuroblasts migrate and differentiate into mature neurons in the post-stroke adult striatum.	二宮 充喜子	神経内科・ 脳卒中内科
Geriatric Medicine 44;1740-1744, 2006	パーキンソン病におけるカテコラミン代謝とMIBG心筋シンチグラフィの検討	山元 敏正	神経内科・ 脳卒中内科
神経内科 65;207-208, 2006	眼で見る神経内科 筋萎縮性側索硬化症に認められた限局性浮腫	山元 敏正	神経内科・ 脳卒中内科
脳卒中 28;505-509, 2006	脳卒中の診断・治療における画像診断の進歩 テント上Branch atheromatous disease(BAD)の画像所見と予後	溝井 令一	神経内科・ 脳卒中内科
神経治療学 23;655-659, 2006	副鼻腔炎・海綿静脈洞炎による脳神経障害で発症し、髄膜炎、肺血症、深頸部感染症からtoxic shock like syndromeをきたした劇症型C群様連菌感染症の1例	富岳 亮	神経内科・ 脳卒中内科
Brain Res 1108;221-223, 2006	A561C polymorphism of E-selectin is associated with ischemic cerebrovascular disease in the Japanese population without diabetes mellitus and hypercholesterolemia.	棚橋 紀夫	神経内科・ 脳卒中内科
臨床神経学 46(9);652-654, 2006	両側視床病変による意欲低下、見当識障害で亜急性発症した直静脈洞血栓症の1例	中里 良彦	神経内科・ 脳卒中内科
Brain Res 1121;246-249, 2006	G501C polymorphism of oxidized LDL receptor gene (OLR1) and ischemic stroke.	棚橋 紀夫	神経内科・ 脳卒中内科
麻酔・集中治療とテクノロジー2005 49-50, 2006	3画面同時録画による喉頭鏡視野の比較検討システム	岩瀬 良範	麻酔科
麻酔・集中治療とテクノロジー2005 51-52, 2006	X-port™によるシリアルデータのイーサネット変換とその利点について	岩瀬 良範	麻酔科

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
麻酔・集中治療とテクノロジー2004 61-63, 2006	ヘッドマウントディスプレイと超小型CCDによる目視視野モニタリング	岩瀬良範	麻酔科
麻酔・集中治療とテクノロジー2005 53-56, 2006	高機能患者シミュレータによる臨床実習の工夫 いかにより学生を本気にさせるか	岩瀬良範	麻酔科
麻酔・集中治療とテクノロジー2004 70-72, 2006	直接CCD方式ビデオ喉頭鏡	岩瀬良範	麻酔科
老年精神医学雑誌 18;61-67, 2007	99mTc-ECD-SPECTを用いた早発性および晩発性アルツハイマー病局所脳血流の比較検討	松田博史	放射線科
Nucl Med Commun 28;199-205, 2007	An easy Z-score imaging system for discrimination between very early Alzheimer's disease and controls using brain perfusion SPECT in a multicentre study.	松田博史	放射線科
Neuroimage 33;218-226, 2006	Changes in cerebral glucose utilization in patients with panic disorder treated with cognitive-behavioral therapy.	今林悦子	放射線科
Heart Vessels 23;79-87, 2007	Delayed enhancement on CT in abdominal aortic aneurysm wall.	木村文子	放射線科
J Neurophysiol 95;2293-2303, 2006	Effect of benzodiazepine hypnotic triazolam on relationship of blood pressure and Paco <sub>2</sub> to cerebral blood flow during human non-rapid eye movement sleep.	今林悦子	放射線科
Osteoporosis Japan 14;161-162, 2006	MRIによる圧迫骨折の質的診断	小澤栄人	放射線科
Brain Lang 100;276-282, 2007	Neural correlates for learning to read Roman numerals.	今林悦子	放射線科
J Deaf Stud Deaf Educ 11;144-152, 2006	Neural correlates for numerical processing in the manual mode.	今林悦子	放射線科
福島県IVR研究会雑誌 11;1-4, 2007	レーザー血管形成術と異常筋腱切離術を施行後長期(17年)フォローアップし動脈開存を確認した膝窩動脈捕捉症候群の1例	田中淳司	放射線科
臨床放射線 51;1227-1230, 2006	腫瘍内出血を合併した後腹膜 gastrointestinal stromal tumorの1例	水越和歌	放射線科

計 13

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
福島県IVR研究会 雑誌 11;33-38, 2007	腎血管性高血圧のIVRによる治療	田中淳司	放射線科
Anticancer Res 26;3421-3428, 2006	Inhibition of poly (ADP-ribose) polymerase as a protective effect of nicaraven in ionizing radiation- and ara-C-induced cell death.	關根 広	放射線科
埼玉医科大学雑誌 33;19-23, 2006	副腎腺腫のCT値とMRI信号評価の検討	小澤 栄人	放射線科
Gastric Cancer 9;262-270, 2006	A multicenter retrospective study of endoscopic resection for early gastric cancer.	大谷 吉秀	消化器一般外科
J Surg Oncol 93;68-71, 2006	A new laparoscopic-assisted hepatectomy (LAH) utilizing radiofrequency ablation and high-frequency electrocauter.	宮澤 光男	消化器一般外科
World J Surg 31;383-394, 2007	Clinical significance of large Tenascin-C spliced variant as a potential biomarker for colorectal cancer.	竹田 明彦	消化器一般外科
J Surg Oncol 93;72-75, 2006	Extended right hepatectomy for hilar cholangiocarcinoma with resection of the left hepatic duct prior to hepatic resection.	宮澤 光男	消化器一般外科
J Clin Pathol 59;890-891, 2006	Gastric carcinogenesis after long-term observation of clinical course without any treatment in a patient with attenuated familial adenomatous polyposis.	竹田 明彦	消化器一般外科
Surgery 141;124-125, 2007	Plasma large Tenascin-C spliced variant as a possible biomarker for the prediction of recurrence in colorectal cancer.	竹田 明彦	消化器一般外科
Organ Biology 13;153-160, 2006	Tissue engineeringを応用した胆管再生療法の開発—生体吸収性ポリマーを利用し肝外胆管を再生させることが可能である—	宮澤 光男	消化器一般外科
J Clin Gastroenterol 40;555-557, 2006	$\alpha$ -Fetoprotein-producing Clear Cell Carcinoma of the Extrahepatic Bile Ducts.	宮澤 光男	消化器一般外科
手術 60;1723-1727, 2006	ラジオ波焼灼を利用した腹腔鏡下肝切除術	宮澤 光男	消化器一般外科

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床外科学会雑誌 67;1193-1198, 2006	急性胆嚢炎における内視鏡的胆嚢ドレナージおよび胆嚢内超音波内視鏡検査の検討	篠塚 望	消化器一般外科
Asia-Pacific Journal of Clinical Oncology 2;167-174, 2006	Lymphatic mapping and lymphatic endothelial cell isolation in colorectal cancer patients.	竹田 明彦	消化器一般外科
外科 68;88-92, 2006	胆道ステント留置例における先端彎曲型内視鏡的逆行性膵胆管造影チューブの有用性	篠塚 望	消化器一般外科
日本外科系連合学会誌 31;222-225, 2006	著明な直腸狭窄を呈した骨盤放線菌症の1例	廣岡 映治	消化器一般外科
外科治療 94;217-220, 2006	内視鏡的胆道ステント留置術におけるハーバランプカテーテルの使用経験	篠塚 望	消化器一般外科
胆道 20;479-483, 2006	膵頭十二指腸切除における術前減黄の有用性と問題点	篠塚 望	消化器一般外科
Acta Neuropathol 111;483-488, 2006	Increased expression of podoplanin in malignant astrocytic tumors as a novel molecular marker of malignant progression.	三島 一彦	脳神経外科
癌と化学療法 33;1279-1285, 2006	初回再発の退形成性星細胞腫患者に対するTemozolomide単剤投与の有効性及び安全性の検討-多施設共同第II相試験	西川 亮	脳神経外科
Acta Neuropathol 111;563-568, 2006	Podoplanin expression in primary central nervous system germ cell tumors: a useful histological marker for the diagnosis of germinoma.	三島 一彦	脳神経外科
Biochem Biophys Res Commun 349;277-283, 2006	Brain- and heart-specific Patched-1 containing exon 12b is a dominant negative isoform and is expressed in medulloblastomas.	西川 亮	脳神経外科
J Artif Organs 9;209-213, 2006	Importance of luxury flow for critically ill patients receiving a left ventricular assist system.	西村 隆	心臓血管外科
呼吸と循環 54;8-10, 2006	虚血性僧帽弁閉鎖不全の外科治療	今中和人	心臓血管外科

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Thorac Surg 83;661-662, 2007	Cardiac resurrection after bone-marrow-derived mononuclear cell transplantation during left ventricular assist device support.	許 俊 鋭	心臓血管外科
J Pediatr Surg 41;2096-2097, 2006	Pulmonary sequestration.	谷 水 長 丸	小児外科
J Pediatr Surg 41;1313-1315, 2006	Congenital intrarenal teratoma arising from a horseshoe kidney.	大 野 康 治	小児外科
Acta Medica Nagasakiensia 51;45-49, 2006	Ultrasound observation of postoperative changes of the Roux Limb after a Roux-en-Y Jejunostomy in pediatric Patients: a preliminary report.	大 野 康 治	小児外科
World J Gastroenterol 12;1798-1801, 2006	Remission of primary low-grade gastric lymphomas of the mucosa-associated lymphoid tissue type in immunocompromised pediatric patients.	大 野 康 治	小児外科
J Pediatr Surg 41;1501-1505, 2006	Clinical characteristics and outcome of Wilms tumors with a favorable histology in Japan: a report from the Study Group for Pediatric Solid Malignant Tumors in the Kyushu Area, Japan.	大 野 康 治	小児外科
World J Gastroenterol 12;1798-1801, 2006	Destructive granuloma derived from a liver cyst: A case report.	大 野 康 治	小児外科
日本小児外科学会雑誌 42;807-810, 2006	正常卵巣茎捻転の1小児例	谷 水 長 丸	小児外科
Pediatr Surg Int 22;915-923, 2006	Suppression of proinflammatory cytokine production in macrophages by lansoprazole.	檜 顕 成	小児外科
Nippon Rinsho 64;531-536, 2006	Controversial matters in the guidelines for the therapy of patients with hypertension.	鈴 木 洋 通	腎臓内科
Nippon Rinsho 64;480-485, 2006	E-COST.	菅 野 義 彦	腎臓内科
Nippon Rinsho 28;517-519, 2006	Juxtaglomerular cell tumor.	鈴 木 洋 通	腎臓内科

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Intern Med 45;193-198, 2006	A five-year comparison of the renal protective effects of angiotensin-converting enzyme inhibitors and angiotensin receptor blockers in patients with non-diabetic nephropathy.	正田純子	腎臓内科
Am J Pathol 169;1577-1589, 2006	A possible anti-inflammatory role of angiotensin II type 2 receptor in immune-mediated glomerulonephritis during type 1 receptor blockade.	岡田浩一	腎臓内科
J Clin Invest 117;304-306, 2007	A proximal activator of transcription in epithelial-mesenchymal transition.	井上勉	腎臓内科
Mol Cell Proteomics 6;738-744, 2007	Absence of increased $\alpha$ 1-microglobulin in IgA nephropathy proteinuria.	岡田浩一	腎臓内科
Clin J Am Soc Nephrol 1;730-737, 2006	Add-on angiotensin receptor blocker in patients who have proteinuric chronic kidney diseases and are treated with angiotensin-converting enzyme inhibitors.	菅野義彦	腎臓内科
Am J Hypertens 20;172-176, 2007	Congenetic substitution mapping for intracellular Ca <sup>2+</sup> in spontaneously hypertensive rats.	鈴木洋通	腎臓内科
Adv Perit Dial 22;65-68, 2006	Efficacy and safety of meropenem plus tobramycin followed by meropenem plus vancomycin for treating peritonitis in patients on continuous ambulatory peritoneal dialysis.	小林和裕	腎臓内科
Nephrol Dial Transplant 22;1224-1227, 2007	Elevation of plasma D-dimer is closely associated with venous thrombosis produced by double-lumen catheter in pre-dialysis patients.	菅野義彦	腎臓内科
Am J Physiol Renal Physiol 290;F844-853, 2006	Exogenous 5'-nucleotidase improves glomerular autoregulation in Thy-1 nephritic rats.	岡田浩一	腎臓内科
Intern Med 45;193-198, 2006	Five-year comparison of the renal protective effects of angiotensin-converting enzyme inhibitors and angiotensin receptor blockers in patients with non-diabetic nephropathy.	正田純子	腎臓内科
Intern Med 45;947-951, 2006	Impact of selectin gene polymorphisms on rapid progression to end-stage renal disease in patients with IgA nephropathy.	渡邊裕輔	腎臓内科

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Adv Perit Dial 22;136-140, 2006	Long-term follow-up of patients treated with a combination of continuous ambulatory peritoneal dialysis and hemodialysis.	星 均	腎臓内科
Contrib Nephrol 155;29-39, 2007	Nutritional assessment by a new method for patients with renal disease.	菅野義彦	腎臓内科
Am J Pathol 169;1577-1589, 2006	Possible anti-inflammatory role of angiotensin II type 2 receptor in immune-mediated glomerulonephritis during type 1 receptor blockade.	岡田浩一	腎臓内科
Adv Perit Dial 22;192-197, 2006	Risk factors for vascular complications in patients on peritoneal dialysis.	有馬博	腎臓内科
Contrib Nephrol 155;125-135, 2007	Salt and excess food intake produced diabetic nephropathy in Japan.	高根裕史	腎臓内科
Contrib Nephrol 155;90-101, 2007	Sodium and kidney disease.	鈴木洋通	腎臓内科
Adv Perit Dial 22;18-23, 2006	The newly developed calcium antagonist, azelnidipine, increases drain volume in continuous ambulatory peritoneal dialysis patients.	鈴木洋通	腎臓内科
Circ J 70;548-552, 2006	Valsartan cardio-renal protection in patients undergoing coronary angiography complicated with chronic renal insufficiency (VAL-CARP) trial: rationale and design.	池田直史	腎臓内科
日本病態栄養学会誌 9;165-171, 2006	血液透析患者における低グルテリン米の有用性に関する介入試験	菅野義彦	腎臓内科
日本透析医学会誌 39;1187-1190, 2006	血液透析患者の主食としてのBG無洗米の有用性	菅野義彦	腎臓内科
日本透析医学会誌 40;55-60, 2007	持続血液透析療法下におけるテイコプラニンの薬物動態に関する検討	小林和裕	腎臓内科
日本透析医学会雑誌 40;215-223, 2007	透析患者の循環器合併症 Up to Date.	鈴木洋通	腎臓内科

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Cardiol 109;430-443, 2006	Endocardial fibrosis in subacute non-Q wave myocardial infarction demonstrated by multislice computed tomography.	小宮山 伸之	心臓内科
A J Cardiol 97;1322, 2006	Location of focal vasospasm provoked by ergonovine maleate within coronary arteries in patients with vasospastic angina pectoris.	小泉 智三	心臓内科
Int J Cardiol 113;132-138, 2006	Retrospective ECG-gated left ventriculography using multislice CT following left ventricular bolus injection and evaluation of its utility and motion artifact at every cardiac phase.	小宮山 伸之	心臓内科
Ann Nucl Med 20;195-202, 2006	Surveillance study for creating the national clinical database related to ECG-gated myocardial perfusion SPECT of ischemic heart disease: J-ACCESS study design.	西村 重敬	心臓内科
Eur J Nucl Med Mol Imaging 34;1088-1096, 2007	Normal limits of ejection fraction and volumes determined by gated SPECT in clinically normal patients without cardiac events: a study based on the J-ACCESS database.	西村 重敬	心臓内科
Allergol Int 55;3287-3293, 2006	A reandomised open-label comparative study of montelukast versus theophylline added to inhaled corticosteroid in asthmatic children.	小田嶋 安平	小児科
Mol Cell Biol 27;4228-4237, 2007	Analysis of the assembly profiles for mitochondrial and nuclear encoded subunits into complex I.	大竹 明	小児科
J Am Coll Cardiol 47;2528-2535, 2006	Cardiac rest and reserve function in patients with Fontan circulation.	先崎 秀明	小児科
臨床化学 36;67-73, 2007	HbA1c測定のためのレファレンスラボラトリー設定指針 (Ver. 1. 8:2006-12-20)	雨宮 伸	小児科
Cli Pediatr Endocrinol 15;73-77, 2006	Relatively small birth size and accelerated early growth of Japanese type 1 diabetic children with younger onset.	雨宮 伸	小児科
Bull Environ Contam Toxicol 77;331-337, 2006	Serum levels of volatile organic compounds in patients with sick building syndrome.	小田嶋 安平	小児科

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。  
 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床化学 35;378-389, 2006	SMBC測定機器校正法	雨宮 伸	小児科
Current Medical Research and Opinion 22;1013-1020, 2006	Type 2 diabetes in youth from the Western Pacific region: glycemic control, diabetes care and complications.	雨宮 伸	小児科
アレルギー 55;1295-1303, 2006	テオフィリン投与中の痙攣症例に関する臨床的検討	小田嶋 安平	小児科
日本小児腎臓病学会 雑誌 19;135-140, 2006	異なる組織病型を示したC1q腎症の2例	森野 正明	小児科
日本小児呼吸器疾患 学会誌 18;7-13, 2007	小児患者のテオフィリン体内動態に及ぼす少量エリスロマイシン療法の影響	小田嶋 安平	小児科
日本小児アレルギー 学会誌 21;222-227, 2007	臨床心理士による喘息児セルフケア支援の有用性に関する検討 臨床症状、肺機能、および薬価から見た治療薬の変化	小田嶋 安平	小児科
Biol Pharm Bull 29;799-800, 2006	The inhibitory effect of disodium cromoglycate on the growth of Chlamydomonas (Chlamydia) pneumoniae in vitro.	山崎 勉	小児科
Nat Med 12;1410-1416, 2006	Regulation of osteoclast differentiation and function by the CaMK-CREB pathway.	佐藤 浩二郎	リウマチ 膠原病科
J Exp Med 203;2673-2682, 2006	Th17 functions as an osteoclastogenic helper T cell subset that links T cell activation and bone destruction.	佐藤 浩二郎	リウマチ 膠原病科
Int Arc Allergy Immunol 140 (Suppl1); 17-22, 2006	Differential effects of salbutamol and montelukast on eosinophil adhesion and superoxide anion generation.	斉藤 圭子	呼吸器内科
Am J Respir Cell Mol Biol 34;760-765, 2006	Eosinophil trans-basement membrane migration induced by interleukin-8 and neutrophils.	永田 真	呼吸器内科
Br J Cancer 95;1483-1489, 2006	Gefitinib for non-small-cell lung cancer patients with epidermal growth factor receptor gene mutations screened by peptide nucleic acid-locked nucleic acid PCR clamp.	須谷 顕尚	呼吸器内科

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J of Hum Genet 80;1090-1102, 2007	Homozygosity haplotype allows a genomewide search for the autosomal segments shared among patients.	萩原弘一	呼吸器内科
Am J Respir Crit Care Med 175;263-268, 2006	Mutations in the SLC34A2 gene are associated with pulmonary alveolar microlithiasis.	萩原弘一	呼吸器内科
Cancer Sci 98;246-252, 2007	Reliability of the peptide nucleic acid-locked nucleic acid polymerase chain reaction clamp-based test for epidermal growth factor receptor mutations integrated into the clinical practice for non-small cell lung cancers.	萩原弘一	呼吸器内科
Anticancer Res 26;4697-4704, 2006	Weekly administration of irinotecan (CPT-11) plus cisplatin for non-small cell lung cancer.	小林国彦	呼吸器内科
日本呼吸器学会雑誌 44;681-688, 2006	インフルエンザ肺炎84例の臨床像	金澤 寛	呼吸器内科
日本呼吸器学会雑誌 45;237-242, 2007	好中球エラストラーゼ阻害剤を使用した急性肺損傷および間質性肺炎症例の臨床的検討	佐藤長人	呼吸器内科
Anticancer Res 26;4519-4525, 2006	The characterization of gefitinib sensitivity and adverse events in patients with non-small cell lung cancer.	小山信之	呼吸器内科
Gynecol Oncol 103;732-735, 2006	A feasibility study of extraperitoneal laparoscopic para-aortic lymphadenectomy (ELPAN).	長尾昌二	産婦人科
Mol Endocrinol 20;2444-2455, 2006	Differential expression of FOXO1 and FOXO3a confers resistance to oxidative cell death upon endometrial decidualization.	梶原 健	産婦人科
Oncol Rep 15;1265-1271, 2006	Gene expression profiles with cDNA microarray reveals RhoGDI as a predictive marker for paclitaxel resistance in ovarian cancers.	後藤友子	産婦人科
Int J Gynecologic Cancer 16;121-124, 2006	Hormonal function after ovarian transposition to the abdominal Subcutaneous fat tissue.	長尾昌二	産婦人科
Med Mol Morphol 39;203-208, 2006	LPS-induced transient testicular dysfunction accompanied by apoptosis of testicular germ cells in mice.	梶原 健	産婦人科

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mol Endocrinol 20;35-44, 2006	Progestins regulate the expression and activity of the forkhead transcription factor FOXO1 in differentiating human endometrium.	梶原 健	産婦人科
Endocrinology 147;1780-1788, 2006	Endoplasmic reticulum aminopeptidase-1 mediates leukemia inhibitory factor-induced cell surface human leukocyte antigen-G expression in JEG-3 choriocarcinoma cells.	板倉 敦夫	産婦人科
Acta Obstet Gynecol Scand 85;429-434, 2006	Methods for myometrium closure and other factors impacting effects on cesarean section scars of the uterine segment detected by the ultrasonography.	板倉 敦夫	産婦人科
Placenta 27;587-591, 2006	Angiotensin II augments migration and invasion of choriocarcinoma cells involves PI3K activation through the AT1 receptor.	板倉 敦夫	産婦人科
Gynecol Oncol 101;455-463, 2006	Phase III double-blind randomized trial of radiation therapy for stage IIIb cervical cancer in combination with low-or high-dose Z-100: treatment with immunomodulator, more is not better.	藤原 恵一	産婦人科
Jpn J Clin Oncol 36;570-577, 2006	Randomized phase II study of immunomodulator Z-100 in patients with stage IIIB cervical cancer with radiation therapy.	藤原 恵一	産婦人科
精神医学 48;529-537, 2006	「ベクトル診断」の紹介: 伝統的診断方法の定式化の観点から	太田 敏男	神経精神科・心療内科
Naunyn Schmiedeberg's Arch Pharmacol 372;335-345, 2006	5-HT-stimulated [35S]guanosine-5'-0-(3-thio)triphosphate binding as an assay for functional activation of G proteins coupled with 5-HT1B receptors in rat striatal membranes.	小田垣 雄二	神経精神科・心療内科
Biol Psychol 71;54-62, 2006	Comparison between mismatch negativity amplitude and magnetic mismatch field strength in normal adults.	岩波 明	神経精神科・心療内科
Prog Neuro- Psychopharmacol Biol Psychiatry 30;1304-1312, 2006	Dopamine D2 receptor-mediated G protein activation assessed by agonist-stimulated [35S]guanosine-5'-0-(gamma-thiotriphosphate) binding in rat striatal membranes.	小田垣 雄二	神経精神科・心療内科
Pediatr Neurol 36;190-194, 2007	Magnetoencephalographic findings of Panayiotopoulos syndrome with frontal epileptic discharges.	金澤 治	神経精神科・心療内科

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Spine 31;579-583, 2006	The length of the cervical cord: effects of postural changes in healthy volunteers using positional magnetic resonance imaging.	桑 沢 安 行	整形外科・ 脊椎外科
J Spinal Disord Tech 348-352, 2006	Biomechanical aspects of the cervical cord: effects postural changes in healthy volunteers using positional magnetic resonance imaging.	桑 沢 安 行	整形外科・ 脊椎外科
東日本整形災害外科 学会雑誌 18;141-144, 2006	異なった縫合方法で縫合したブタ足趾屈筋腱の力学的強度	坂 口 勝 信	整形外科・ 脊椎外科
Spine 31;980-983, 2006	Quadriplegia due to intraspinal cyst after failed posterior occipitocervical fusion in a patient with athetoid cerebral palsy.	吉 川 淳	整形外科・ 脊椎外科
J Orthop Surg 14;3-8, 2006	Sensory innervation of temporomandibular joint disk.	金 潤 澤	整形外科・ 脊椎外科
関節鏡 31;117-121, 2006	前十字靭帯再建術における移植腱の固定強度—Central positionでスクリュー固定したときのdilation効果について—	日向野 雅 典	整形外科・ 脊椎外科
J Oral Maxillofac Surg 64;1165-1172, 2006	Dislocation of the bilateral mandibular condyle into the middle cranial fossa: review of the literature and clinical experience.	市 岡 滋	形成外科・ 美容外科
Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 41;65-69, 2007	Versatility of the Limberg flap and the V-Y flap (based on a distal perforator) for covering sacral ulcers.	市 岡 滋	形成外科・ 美容外科
日本マイクロサージ ャリー学会 19;157-162, 2006	高倍率双眼ルーペを用いた遊離組織移植術の経験	中 塚 貴 志	形成外科・ 美容外科
J Clin Neurosci 27;1066-1069, 2006	Acquired stuttering in a patient with Wernicke's aphasia.	前 島 伸一郎	リハビリテーション科
日本老年精神医学誌 17;435-440, 2006	もの忘れを有する患者における Raven's colored progressive matricesと Mini-mental State Examination.	前 島 伸一郎	リハビリテーション科
高次脳機能研究 26;327-333, 2006	もの忘れ外来における認知症と言語流暢性課題	前 島 伸一郎	リハビリテーション科

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
高次脳機能研究 26;320-326, 2006	もの忘れ外来を受診した高齢者の言語性記憶に関する研究	前島伸一郎	リハビリテーション科
リハビリテーション医学 43;446-453, 2006	高齢者における展望的記憶の検討 -とくに存在想起と内容想起の違いについて-	前島伸一郎	リハビリテーション科
理学療法ジャーナル 40;487-490, 2006	整形外科疾患における日本語版Rivermead Mobility Indexの信頼性と妥当性について	前島伸一郎	リハビリテーション科
Otolaryngol Head Neck Surg 134;639-645, 2006	Analysis of prognostic factors of nasopharyngeal carcinoma: impact of in situ hybridization for Epstein-Barr virus encoded small RNA 1.	菅澤正	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科学会会報 109;587-593, 2006	深頸部感染症69例の臨床的検討	善浪弘善	耳鼻咽喉科
日本口腔咽頭科学会雑誌 18;421-428, 2006	扁桃周囲膿瘍入院患者の臨床統計的研究	加藤晴弘	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol 127;88-92, 2007	An effective regimen for laryngeal granuloma caused by gastro-esophageal reflux: combination therapy with suggestions for lifestyle modifications.	肥後隆三郎	耳鼻咽喉科
Eur Arch Otorhinolaryngol 264;561-563, 2007	Salivary duct carcinoma in the sinonasal tract.	肥後隆三郎	耳鼻咽喉科
Mol Vis 12;1022-1032, 2006	In vitro and in vivo characterization of iris pigment epithelial cells cultured on amniotic membranes.	森圭介	眼科
Ophthalmic Surg Lasers Imaging 38;142-147, 2007	Intraocular biodistribution of mono-L-aspartyl chlorin e6 in a primate choroidal neovascularization model.	森圭介	眼科
Am J Ophthalmol 141;719-726, 2006	Optical coherence tomography of enucleated human eye specimens with histological correlation: origin of the outer 'red line'.	森圭介	眼科
Am J Ophthalmol 141;740-742, 2006	Optical coherence tomography of peripheral retinal lesions in enucleated human eye specimens with histologic correlation.	森圭介	眼科

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mol Vis 12;8002-8010, 2006	Transpupillary thermotherapy-induced modification of angiogenesis- and coagulation-related gene expression in the rat posterior fundus.	森 圭 介	眼 科
Ophthalmology 114;127-133, 2007	Treatment of stage 2 macular hole by intravitreal injection of expansile gas and induction of posterior vitreous detachment.	森 圭 介	眼 科
日本眼科学会雑誌 111;102-106, 2007	角膜浸潤を伴った瞼結膜悪性黒腫の1例	樺 澤 昌	眼 科
臨床眼科 60;1637-1641, 2006	血管新生緑内障に対するマイトミンC併用線維柱帯切除術の長期手術成績	太 田 剛	眼 科
眼科 48;712-746, 2006	視覚電気生理の展望2003 -1. 眼科診断学-	島 田 佳 明	眼 科
眼科 48;821-853, 2006	視覚電気生理の展望2003 -2. 眼科治療学、全身疾患、視覚生理学-	島 田 佳 明	眼 科
臨床眼科 60;1637-1641, 2006	新生血管緑内障に対する線維柱帯切開術の長期手術成績	太 田 剛	眼 科
臨床眼科 60;1643-1647, 2006	先天性無眼球の2例	米 谷 新	眼 科
Eur J Immunol 36;2116-2127, 2006	CCL17トランスジェニックマウスの作製と解析	中 村 晃一郎	皮膚科
J Dermatol Sci 43;201-205, 2006	ベーチェット病におけるフィコリン遺伝子検索	中 村 晃一郎	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 116;1187-1193, 2006	悪性黒色腫の肺転移に対する外科療法の有用性	山 本 明 史	皮膚科
皮膚疾患最新の治療 2007-2008 230-231, 2006	血管腫・脈管形成異常	倉 持 朗	皮膚科
今日の小児治療指針 第14版 634-636, 2006	血管腫・脈管形成異常	倉 持 朗	皮膚科

計 13

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
皮膚病診療 28;663-666, 2006	前額部皮下膿瘍	倉持 朗	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 116;1201-1206, 2006	頭頸部皮膚原発悪性黒色腫の頸部郭清術	山本明史	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 116;1313-1318, 2006	乳房外パジェット病のTNM分類について	山本明史	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 116;1473-1477, 2006	乳房外パジェット病の進展様式および化学療法について	山本明史	皮膚科
Skin Cancer 21;199-205, 2006	乳房外パジェット病の剖検例	山本明史	皮膚科
臨床病態学 2;535-549, 2006	免疫・アレルギー疾患 アトピー性皮膚炎	倉持 朗	皮膚科
埼玉医科大学雑誌 33;41-45, 2006	埼玉医科大学病院における前立腺癌に対する高線量率組織内照射の経験	黒田 功	泌尿器科
日本泌尿器科学会雑誌 98;552-557, 2007	泌尿器科内視鏡の洗浄・消毒・滅菌におけるガイドラインの重要性 3つの工程の検証から	黒田 功	泌尿器科
J clinical Oncol 25;411-417, 2007	Dofequidar fumarate (MS-209) in combination with cyclophosphamide, doxorubicin, and fluorouracil for patients with advanced or recurrent breast cancer.	佐伯俊昭	乳腺腫瘍科
Breast Cancer 13;159-165, 2006	Efficacy and toxicity of vinorelbine with doxorubicin / cyclophosphamide combination Chemotherapy in a Phase I-II study for advanced or recurrent breast cancer patients.	佐伯俊昭	乳腺腫瘍科
Ann Oncol 17;1665-1672, 2006	Correlation between tumor response to first-line chemotherapy and prognosis in advanced gastric cancer patients.	市川 度	臨床腫瘍科
Cancer Chemother Pharmacol 58;794-801, 2006	Gene expression of ferredoxin reductase predicts outcome in patients with metastatic colorectal cancer treated by 5-fluorouracil plus leucovorin.	市川 度	臨床腫瘍科

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Cancer 118;2602-2608, 2006	Inhibition of bone-derived insulin-like growth factors by a ligand-specific antibody suppresses the growth of human multiple myeloma in the human adult bone explanted in NOD/SCID mouse.	荒木和浩	臨床腫瘍科
Clin Cancer Res 12;3928-3934, 2006	Orotate phosphoribosyltransferase gene polymorphism predicts toxicity in patients treated with bolus 5-fluorouracil regimen.	市川 度	臨床腫瘍科
Cancer Sci 97;1255-1259, 2006	Pharmacogenetic impact of polymorphisms in the coding region of the UGT1A1 gene on SN-38 glucuronidation in Japanese patients with cancer.	荒木和浩	臨床腫瘍科
Br J Cancer 94;1130-1135, 2006	Phase I/II study of S-1 combined with irinotecan for metastatic advanced gastric cancer.	市川 度	臨床腫瘍科
Gastric Cancer 9;145-155, 2006	Prediction of clinical outcome of fluoropyrimidine-based chemotherapy for gastric cancer patients, in terms of the 5-fluorouracil metabolic pathway.	市川 度	臨床腫瘍科
Int J Cancer 119;1927-1933, 2006	Simple combinations of 5-FU pathway genes predict the outcome of metastatic gastric cancer patients treated by S-1.	市川 度	臨床腫瘍科
医療薬学 32;329-399, 2006	各種茶飲料が薬物代謝酵素に及ぼす影響 —ヒトCYP3A活性阻害作用の検討—	藤田 健一	臨床腫瘍科
Jpn J Clin Oncol 36;295-300, 2006	Phase I study of single-dose oxaliplatin in Japanese patients with malignant tumors.	長島 文夫	臨床腫瘍科
日本救急医学会関東 地方会雑誌 27;152-153, 2006	長時間搬送を要した救急症例の検討	龍神 秀穂	救急部
脳卒中 28;291-296, 2006	心原性脳塞栓症の機能的回復に対する エダラボン早期投与の効果	古屋 大典	救急部
Hepatogastroenter- ology 53;381-384, 2006	Aggressive endoscopic hemostasis for severe gastrointestinal bleeding in critically ill patients to decrease mortality.	根本 学	救急部
日救急医会関東誌 27;78-79, 2006	外傷初期対応を検証すべきと思われた多発外 傷症例の検討	齋藤 憲人	救急部

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本口腔診断学会誌 20;89-93, 2007	歯根嚢胞に対する摘出開放法の術後成績についての検討	嶋村 由美子	歯科・ 口腔外科
障害者歯科 28;20-27, 2007	重症心身障害者施設入所者の歯科疾患調査	小林 明 男	歯科・ 口腔外科
Cranio 24;130-136, 2006	Response of Temporomandibular Joint Intermittent closed lock to different treatment modalities: a multicenter survey.	依田 哲 也	歯科・ 口腔外科
日本口腔顎顔面学会誌 5;18-22, 2006	ポリ-L-乳酸 (PLLA) 製吸収性骨接合材を関節突起骨折に使用した2例	依田 哲 也	歯科・ 口腔外科
J Med Dent Sci 53;103-109, 2006	Teeth contacting habit as a contributing factor to chronic pain in patients with temporomandibular disorders.	依田 哲 也	歯科・ 口腔外科
日本口腔診断学会 雑誌 20;89-93, 2007	歯根嚢胞に対する摘出開放法の術後成績についての検討	坂田 康 彰	歯科・ 口腔外科
Adv Perit Dial 22;141-146, 2006	Continuous ambulatory peritoneal dialysis is effective for patients with severe congestive heart failure.	中元 秀 友	総合診療内科
Adv Perit Dial 22;11-17, 2006	Early estimation of high peritoneal permeability can predict poor prognosis for technique survival in patients on peritoneal dialysis.	中元 秀 友	総合診療内科
Hemodial Int 10;10-15, 2006	Hypoalbuminemia is an important risk factor of hypotension during hemodialysis.	中元 秀 友	総合診療内科
腹膜透析2006 61;287-289, 2006	CAPD遠隔支援システムによる家庭血圧の支援—家庭血圧の長期モニタリングと季節変動—	中元 秀 友	総合診療内科
透析会誌 40;1-30, 2007	わが国の慢性透析療法の現況 (2005年12月31日現在)	中元 秀 友	総合診療内科
腹膜透析2006 61;47-51, 2006	高齢者PDの実態調査	中元 秀 友	総合診療内科
透析会誌 40;161-167, 2007	高齢者腹膜透析患者の予後と影響因子に関する多施設共同前向き研究—高齢者腹膜透析研究会 (ゼニーレPD研究会) 中間報告—	中元 秀 友	総合診療内科

計 13

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
腹膜透析2006 61;228-230, 2006	当院CAPD患者に対するHD併用療法の検討	中元秀友	総合診療内科
日腎会誌 48;658-663, 2006	末期慢性腎不全に対する腎代替療法の情報提供に関するアンケート調査	中元秀友	総合診療内科
Perit Dial Int 26;136-143, 2006	Is technique survival on peritoneal dialysis better in Japan?	中元秀友	総合診療内科
Perit Dial Int 26;150-154, 2006	Combination therapy with peritoneal dialysis and hemodialysis.	中元秀友	総合診療内科
Adv Perit Dial 22;141-146, 2006	Continuous ambulatory peritoneal dialysis (CAPD) is effective for patients with severe congestive heart failure.	中元秀友	総合診療内科
Chemotherapy 53;59-69, 2007	Effect of rapamycin on hepatocyte function and proliferation induced by growth factors.	森吉美穂	臨床検査医学
Am J Surg Pathol 31;403-409, 2007	Buried dysplasia and early adenocarcinoma arising in Barrett esophagus after porfimer-photodynamic therapy.	伴 慎一	病理学
Am J Surg Pathol 30;1561-1569, 2006	Intraductal papillary mucinous neoplasm (IPMN) of the pancreas: Its histopathological difference between twomajor types.	伴 慎一	病理学
Arch Dermatol 143;53-59, 2007	Lymphoid keratosis. An epidermotropic type of cutaneous lymphoid hyperplasia. A clinicopathological, immunohistochemical and molecular biological study of six cases.	新井栄一	病理学
Am J Surg Pathol 30;650-656, 2006	Post-gastric endoscopic mucosal resection surveillance biopsies: evaluation of mucosal changes and recognition of potential mimics of residual adenocarcinoma.	伴 慎一	病理学
Hum Pathol 37;1123-1129, 2006	The value of MDM2 and CDK4 amplification levels using real-time polymerase chain reaction for the differential diagnosis of liposarcoma and their histologic mimickers.	島田志保	病理学

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Cutan Pathol 33;492-497, 2006	Usefulness of D2-40 immunohistochemistry for differentiation between Kaposiform hemangioendothelioma and tufted angioma.	新井栄一	病理学
Am J Hematol 81;875-879, 2006	Pharmacokinetics of alemtuzumab after haploidentical HLA-mismatched hematopoietic stem cell transplantation using in vivo alemtuzumab with or without CD52-positive malignancies.	正田絵里子	輸血・細胞移植部
J Antimicrob Chemother 57;1004-1007, 2006	Pharmacokinetics of ganciclovir in haematopoietic stem cell transplantation recipients with or without renal impairment.	正田絵里子	輸血・細胞移植部
Transfusion 47;326-334, 2007	A possible role for the production of multiple HLA antibodies in fatal platelet transfusion refractoriness after peripheral blood progenitor cell transplantation from the mother in a patient with relapsed leukemia.	池淵研二	輸血・細胞移植部
Artif Cells Blood Substit Immobil Biotechnol 34;1-10, 2006	Interaction of hemoglobin vesicles, a cellular-type artificial oxygen carrier, with human plasma: effects on coagulation, kallikrein-kinin, and complement systems.	池淵研二	輸血・細胞移植部

計 5

合計 264

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。



(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 横手 祐二		
管理担当者氏名	医務部長 奥富 篁幸 薬剤部長 江草 利昭 利用者苦情相談室長 斉藤 喜博	総務部長 茂木 明 医療安全対策室長 片山 茂裕	

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌 処方せん、手術記録、看護記録、 検査所見記録、エックス線写真、 紹介状、退院した患者に係る入院 期間中の診療経過の要約		診療情報管理室  医務部庶務課	入院・外来診療録とも電子カルテで管理している。 X-Pフィルムは、フィルム保管庫及びCR化にて一括管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課	/
	高度の医療の提供の実績	医務部	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医務部	
	高度の医療の研修の実績	医務部	
	閲覧実績	医務部	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医務部	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務部 薬剤部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	確規保則の第9 況条の23 及び第1 1条各号に 掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策室	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策室 利用者苦情相談室	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室			

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医務部長 奥富 篁幸
閲覧担当者氏名	医務部長 奥富 篁幸 総務部長 茂木 明 薬剤部長 江草 利昭
閲覧の求めに応じる場所	医務部、総務部、薬剤部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延 0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	51.8%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算 出 根 拠	A：紹介患者の数		16,961人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,474人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		4,964人
	D：初診患者の数		54,799人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延べ数を記入すること。

①専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1)名・無
②専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1)名・無
③医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>・所属職員： 専任 ( 2 ) 名 兼任 ( 9 ) 名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>大学病院医療安全対策室規則に定める以下の業務を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全対策委員会の資料及び議事録の作成ならびに保存、庶務に関する事項</li> <li>2. 事故発生時の対応状況についての確認</li> <li>3. 医療安全に係る連絡調整ならびに医療安全推進活動</li> <li>4. 医療安全対策の企画、立案、実施、評価、記録</li> <li>5. 医療安全に係る事項についての大学病院各部及び各委員会との調整</li> <li>6. 医療安全に関連する委員会の議事録、資料の作成ならびに保存</li> <li>7. 事故等が発生した場合、診療録や看護記録等への記載状況の確認</li> <li>8. 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認</li> </ol>	
④当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理指針：平成14年11月19日制定 大学病院の医療安全対策に関する基本姿勢ならびに方針を明確にし、職員に周知を図ることにより安全文化の構築を期待するものである。本指針は患者からの相談への対応に関する指針および、事故等発生時の公表指針も含まれ、また患者・家族の開示請求にも応じる。</li> <li>2. 診療基本マニュアル第9版：平成18年4月1日一刷（平成10年5月6日、初版一刷） 大学病院における診療の基本姿勢を中心に掲載したマニュアルで、机上版のほかマニュアルの要点をまとめたポケット版がある。机上版は、院内各部署に常備されている「埼玉医科大学病院マニュアル集」に収録し、ポケット版は全教職員に貸与し常時携行を要請している。内容は、「診療の基本姿勢」「正しい保険診療」「医療安全の基本」「医療安全対策；総論」「医療安全対策：各論」「問題発生時等への対応」の六章から構成されている。内容は、定期開催（月2回）される診療基本マニュアル編集会議において検討し、必要事項は随時追補している。</li> <li>3. 埼玉医科大学病院マニュアル集 全職員が周知しておくべき診療サービス等に係る基準、手順等を収録している。大学病院マニュアル集は、定期的に加除整理をおこなっている。マニュアル集の主な収録内容は次の通りである。診療基本マニュアル机上版、消毒薬使用指針、麻薬管理マニュアル、向精神薬管理マニュアル、褥瘡対策マニュアル、感染性廃棄物取扱手順書、医療ガス保守点検指針、指定施設等不在者投票処理要領、輸血の手順、</li> <li>4. その他のマニュアル 各マニュアルは、所掌する院内委員会等において診療基本マニュアルとの内容の整合性を検証した上で編集され、関係部署へ常備されている。主なマニュアルは以下の通りである。 電子カルテ運用マニュアル - 全5編 - （情報システム室）、放射線科診療安全マニュアル（中央放射線部）、薬剤業務手順書（薬剤部）、製剤室業務マニュアル（薬剤部）、看護基準・手順（看護部）、診療記録等の開示実施マニュアル（医療情報提供委員会）、災害対策マニュアル（施設部）、血液浄化マニュアル（血液浄化部）、医療機器安全管理指針（中央機材室・MEサービス部）、学校法人埼玉医科大学規程集</li> </ol>	

⑥医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回																																																
<p>活動の主な内容：</p> <p>医療安全対策委員会：大学病院における医療安全対策に関する調査・教育等を総括する委員会であり、医療法施行規則に定める「医療に係る安全管理のための委員会」として位置づけられている。本委員会は病院長を委員長とし、規則により設置された下部専門小委員会において「ヒヤリ・ハット事例」，「アクシデント事例」の検討し、再発防止策等の決定を担っている。本委員会で検討された事項は、大学病院診療科科長会議において報告、審議される。</p>																																																	
⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 12 回																																																
<p>研修の主な内容：</p> <p>表の通り</p> <table border="1" data-bbox="204 705 1401 1176"> <thead> <tr> <th>研修名称</th> <th>開催期日</th> <th>研修の目的・主な内容</th> <th>参加数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マニュアル講習会</td> <td>5/10</td> <td>医療安全の基本的な考え方</td> <td>2,543</td> </tr> <tr> <td>教育講演</td> <td>5/30</td> <td>感染制御部の活動</td> <td>146</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>6/12, 8/22</td> <td>事例から学ぶ医療事故防止</td> <td>321</td> </tr> <tr> <td>教育講演</td> <td>6/27</td> <td>感染予防と栄養サポートチーム</td> <td>173</td> </tr> <tr> <td>教育講演</td> <td>7/25</td> <td>周術期における抗菌薬適正使用</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>8/22, 10/25</td> <td>患者誤認防止, 輸血エラー防止, 誤薬防止</td> <td>997</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>10/25, 12/7</td> <td>危険予知</td> <td>372</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>12/7, 2/16</td> <td>尿道カテーテルの安全管理</td> <td>443</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>2/16</td> <td>転倒・転落防止</td> <td>325</td> </tr> <tr> <td>教育講演</td> <td>2/22</td> <td>医療安全と訴訟対策, インフォームドコンセント</td> <td>2,257</td> </tr> <tr> <td>教育講演</td> <td>3/6</td> <td>具体的事例からみるトラブル対応</td> <td>408</td> </tr> </tbody> </table>		研修名称	開催期日	研修の目的・主な内容	参加数	マニュアル講習会	5/10	医療安全の基本的な考え方	2,543	教育講演	5/30	感染制御部の活動	146	事例学習会	6/12, 8/22	事例から学ぶ医療事故防止	321	教育講演	6/27	感染予防と栄養サポートチーム	173	教育講演	7/25	周術期における抗菌薬適正使用	104	事例学習会	8/22, 10/25	患者誤認防止, 輸血エラー防止, 誤薬防止	997	事例学習会	10/25, 12/7	危険予知	372	事例学習会	12/7, 2/16	尿道カテーテルの安全管理	443	事例学習会	2/16	転倒・転落防止	325	教育講演	2/22	医療安全と訴訟対策, インフォームドコンセント	2,257	教育講演	3/6	具体的事例からみるトラブル対応	408
研修名称	開催期日	研修の目的・主な内容	参加数																																														
マニュアル講習会	5/10	医療安全の基本的な考え方	2,543																																														
教育講演	5/30	感染制御部の活動	146																																														
事例学習会	6/12, 8/22	事例から学ぶ医療事故防止	321																																														
教育講演	6/27	感染予防と栄養サポートチーム	173																																														
教育講演	7/25	周術期における抗菌薬適正使用	104																																														
事例学習会	8/22, 10/25	患者誤認防止, 輸血エラー防止, 誤薬防止	997																																														
事例学習会	10/25, 12/7	危険予知	372																																														
事例学習会	12/7, 2/16	尿道カテーテルの安全管理	443																																														
事例学習会	2/16	転倒・転落防止	325																																														
教育講演	2/22	医療安全と訴訟対策, インフォームドコンセント	2,257																																														
教育講演	3/6	具体的事例からみるトラブル対応	408																																														
⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	⑦・無																																																
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 ( ⑦・無 )</p> <p>改善のための方策の主な内容：</p> <p>インシデント事例は、医療安全管理者ならびに医療安全対策委員会の下部専門小委員会である医療安全対策小委員会委員が毎日輪番制で確認し、重要事例を前記小委員会（月2回開催）において検討する。検討された内容は、科長会議，看護師長会議，医療安全対策実務者に伝達され、各部署へフィードバックならびに厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関へ報告している。</p> <p>アクシデント事例は、医療安全対策室室長ならびに病院長へ報告され、医療安全対策委員会の下部専門小委員会である医療事故対策小委員会、若しくは医療安全対策室部内に設置された医療安全対策調査小委員会により事実関係を調査し、今後の予防策について当該部署より文書による回答を求めるとともに、その内容を病院長ならびに厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関等へ報告する。</p> <p>インシデント事例およびアクシデント事例ともに、委員会等における検証の後、各部署の医療安全対策実務者に対して情報提供し、合わせて再発防止策等の周知伝達を図っている。</p>																																																	